第３回県立高等学校改革懇談会（福島西・福島北）記録

日　時　令和５年１１月２７日（月）10 時 30 分～12 時 00 分
会　場　福島西高校　生徒ホール
傍聴者　２名

（１）　開会

（２）　県立高校改革監あいさつ

【佐藤隆広　県立高校改革監】
　県教育庁県立高校改革監の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。皆様におかれましては、日頃より本県教育に多大なる御理解と御協力を頂きまして感謝申し上げます。
　本日は、御多用中にもかかわらず、御出席いただきましたこと、心より感謝申し上げます。
　さて、昨年度開催いたしました２度の県立高等学校改革懇談会では、急激に進む少子化の状況など、県立高等学校改革後期実施計画を策定した背景や経緯、福島西高校、福島北高校の現状、そして、これらを踏まえた両校を統合する方向性について御説明させていただいたところです。また、統合校の概要として、探究科、デザイン科学科、総合学科の３つの学科の教育内容等について御説明させていただきました。
　皆様からは、「福島北高校の統合や敷地の利用を再度考えてほしい。」という御意見や、「探究科をはじめとする各学科の特色をわかりやすく教えてほしい。」など、様々な御意見を頂戴したところであります。ありがとうございます。
　本日は、前回の懇談会で頂いた御意見や御要望に対する県教育委員会の考え方をお示しするとともに、これからの時代を担う子どもたちに、より良い環境をつくっていくための、統合校の教育内容の特色化、魅力化を図っていく方針を説明させていただきます。どうぞ、皆様方におかれましては、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（３）　説明　（担当）

（４）　懇談　（進行　佐藤隆広　県立高校改革監）

【村上敏通委員（地元有識者）】
　まず、議論に入る前に、第２回の懇談会のことについてお聞きしたい。第２回の懇談会にも参加したが、懇談会翌日の１月 31 日、福島民報の１面に「福島県、空き校舎譲渡へ」という記事が大きく掲載された。それを見て、驚愕した。記事の内容を見ると、県が財政支援の対象とする学校は 16 校で、その中に福島北高校（以下、北高）の学校名も載っていた。１月 31 日に新聞報道されるというこ

とは、当然、31 日以前に、県からマスコミに連絡が入っているはずである。しかし、第 2 回の懇談会では、そういう話が一切出てこなかった。なぜ、そのような大切なことを懇談会で伝えなかったのか。経緯を説明していただきたい。

【中野正人　県立高校改革室長】

校舎が閉じてから利活用の検討を始めるのではなく、校舎を閉じる前から、しっかりと利活用について、検討していくべきだろうという御意見を踏まえて、利活用の在り方、県としての支援の在り方について検討を重ねてきた。こちらについては、教育庁だけではなく知事部局と調整しながら、利活用を進めていくための支援策を作成してきた。外出しのタイミングは、いろいろと調整してきたが、懇談会の段階では、そのタイミングではなかった。あくまでも、懇談会においては、統合校の方向性や統合の必要性について、説明し、特色化・魅力化について意見を頂戴しながら進めていくことで、開催した。その後の話である、土地の利用についてまでは、懇談会の中で、まだ説明する段階になっていないところであり、県の施策として公表していくタイミングも控えていたので、懇談会の場で説明することができなかった。確かに「分かっていたのであれば、なぜ、言わなかったのか」と指摘を受けても、仕方がないと私どもも思っている。しかしながら、検討のタイミングと懇談会の話の進み具合を勘案して、懇談会での発表には至れなかった。御理解いただきたい。

【村上敏通委員（地元有識者）】

要は「懇談会で話をすると面倒なことになる」ことで発表できなかったのではないかと推測する。この懇談会で、私は真摯に意見を述べているので、信義則に反することは、できるだけやってほしくない。知事部局と教育庁の意思疎通として、翌日に発表するか否かは、県の内部の話である。我々はマスコミ発表でしか情報は得られない。したがって、実際にこのようなことが起きるのは、信義則に反すると思う。懇談会をより良いものにするのであれば、今後、このようなことは止めてもらいたい。

【渡邉美幸委員（福島西同窓会長）】

３つ意見を言わせていただく。１つ目は、「統合校は福島西高校（以下、西高とする）を使用する」ことについて、現状、部活動の様子を見ると、西高のグラウンドは非常に狭い。だから統合後も北高のグラウンドだけでも使わせてもらえないかと思っている。現在、西高は野球部員が少なくて、北高と合同で練習している。その際、マイクロバスで西高の部員を北高に送迎している。そういったこともあり、野球部からは、北高の広いグラウンドを使用できないかという希望が出ている。確かに、西高の狭いグラウンドで、野球、サッカー、ソフトボールが一緒に部活動をすることは物理的に無理である。せめて、土日だけでも良いので、北高のグラウンドを使わせてもらえないかと保護者から要望が出ている。西

高には同窓会で寄贈したマイクロバスもあるので、北高のグラウンドの利用を希望する。

２つ目は、前回「令和 9 年度の統合時、北高に通学していた在校生を西高に通学させる。」話があったが、在校生の気持ちを考えていただき、梁川高校と保原高校の統合で実施した「校舎方式」を取っていただきたい。

３つ目は、中学校 2 年生の子を持つ保護者から「これから、西高に入学しても、卒業する時には新しい学校になっている。しかし、その新しい学校については、校名が決まってないし、どのような学校になるのか情報がない。そのため、子どもが西高への希望を出そうかどうか悩んでいる。」という声を聞いている。中学生やその保護者に向けて、もっと早めに新しい情報を伝えてほしい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

まず、「部活動において、統合後も北高のグラウンドを利用できないか」という意見。次に、「統合にあたって、北高の在校生が在籍している間は、そのまま北高の校舎を利用する、いわゆる『校舎方式』を取り入れてほしい」という意見。そして、「統合校の魅力や教育内容について、中学生やその保護者に向けて、早めに説明して進路を明確なものにしてもらうようにするべきではないか」という意見。以上、3 つの意見を頂いた。それでは、３つについて、それぞれ回答させていただく。

【中野正人　県立高校改革室長】

まず、「北高のグラウンドだけでも、部活動で使えないか。」という意見について、今の計画では、令和 9 年度に統合、北高の校舎については令和８年度で、一応閉じる形となる。空き校舎になった場所については、県の施策でもある「空き校舎等の利活用についての支援策」を使って、当該の市町村と協議検討をしていくことになる。北高については、福島市と話をしていく。現在は、調整の段階であり、今後、福島市側との協議が進み、「利活用の方針が大きく決定していくまでの間は、グラウンドを部活動で使わせてもらえないか。」と相談し、理解が得られれば、暫定的にグラウンドを部活動で使用できるのではないかと思っている。福島市側との実質的な協議は、これからである。今後、この懇談会で「統合校としては西高を使う。」という大きな方針が固まったら、それを理解してもらった上で、福島市側と話をしていく必要がある。

２点目の「校舎方式」について、前期計画で統合を進めていく中でも「統合は、子どもたちにとっても、大きく環境が変わる」ということで、子どもたちへの影響を考慮して、「統合しても、統合前に入学した高校の校舎で卒業するまで学ぶ形が取れないか。」と意見を頂戴していた。例えば西高と北高の場合、令和 9 年に統合するが、それ以前に入学した北高と西高の生徒は、それぞれの校舎で卒業

まで学ぶ形にする。これが「校舎方式」である。先程、渡邉委員からは「生徒の気持ちを考慮して、他校で実施した校舎方式を、この統合にも当てはめることはできないだろうか。」という意見を頂いた。これについては、あらためて教育庁の中で検討し、返答させていただく。

3 点目の「統合校の特色などを早めに伝えてほしい」について、確かに、令和 7 年度に入学する生徒は統合時の高校 3 年生である。今、話している統合校のカリキュラムや特色について、直接的な関係はなく、統合前に入学した学校のカリキュラムを卒業するまでの 3 年間学ぶ形になるが、学校自体は変わってしまうため、「統合校の情報について、早めに伝えていくべきだ」という意見は、ごもっともだと思う。例えば、教育庁から発行され、学校の全生徒に配布される「教育ニュース」がある。この「教育ニュース」では、これまで前期実施計画の統合校について特色や教育内容などを掲載し、生徒たちに知らせてきた。このように、様々な場面や手法で、早めに伝えていくことは必要であると思っているので、渡邉委員の御意見の通り、取り組んでいきたい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

只今、 2 点目にあった「校舎方式」について、他に意見があるか。

【山下喜之委員（福島北 PTA 会長）】

校舎方式の説明を聞くと、西高の普通科やデザイン科学科であればよいかもしれない。ただ、北高は総合学科を取り入れている。総合学科は、3 年間の学びを見通した上で、カリキュラムが組まれている。令和 7 年および令和 8 年、北高に入学した生徒については、最後まで、北高に入学した時の理念を通せるよう配慮してもらいたい。

それから、校舎方式ではないが、先程もあったグラウンドの利用について、私は今年の夏まで、北高野球部の保護者会長であった。北高のグラウンドでは、県内外の学校との練習試合が数多く行われた。なぜ、県内外から野球部が来たのか。それは、グラウンドが広いことに加えて、今年に入って、市内の信夫ケ丘球場が、場外に飛んだボールが球場近くの住宅や建物を壊してしまう恐れがあるため、硬式野球の試合ができなくなったからである。さらに、福島民報には「各高校のグラウンドで練習試合ができなくなってしまう」という記事が掲載されていた。ちなみに、西高のグラウンドは元々「福島西女子高校」のソフトボール部が主に使っていた。その後、共学化に伴い、硬式野球部ができて、グラウンドを共用することになり、とても、練習試合をするような広さを確保するのは不可能になってしまった。今後、統合して野球部員が増えて、西高のグラウンドを使うとなれば、ケガ人を出すリスクが高まってしまう。一方、北高のグラウンドには、野球部の室内練習場があり、なおかつ、ソフトボール専用のグラウンドやテニスコー

トもあり、ただ、「土地が広い」だけでなく、スポーツに関する設備が整っている。そして、子どもたちは「ケガのリスクが低い」と言っている。これが、実状である。野球部の保護者会長をやってきた中で、西高のグラウンドでの練習試合は、一度もない。西高の野球部は北高に来て練習を行っている。部員たちは「広くて良い」「ケガの心配がない」「雨が降れば室内練習場で練習できる」「どうして、ここが使えなくなるのか」などと言っている。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

２つの意見を頂いた。１つ目は「校舎方式を採用しても、北高の生徒は入学したカリキュラムで３年間学ぶべきではないか。」という意見。２つ目は「生徒のケガを軽減させる点からも環境の整った北高の施設を使うべきではないか。」という意見。それでは、２つについて回答させていただく。

【中野正人　県立高校改革室長】

まずは「卒業まで一貫したカリキュラムで」という意見について、高校では、基本、１年から３年まで、きちんと決まった教育課程がある。ただ、総合学科では、１年次の段階で、自分の進路や将来を考えて、２年・３年次に選択する科目を選ぶことになっている。そのような意味では、西高の普通科やデザイン科学科のように、入学した段階で３年間のカリキュラムが決まっているものではない。意見として「3 年間、自分で考えたカリキュラムを学んだ上で卒業する形にしたい。」ということであるが、これは、我々も同様に考えている。総合学科として校舎方式を導入したとしても、卒業までしっかりと学べる形となっている。それで「１年次に選択する科目がしっかりと最後まで学べるように北高の校舎を使うべきである」という意見については、先程の「校舎方式を取るべきである。」という意見と合わせて考え、今後検討していく。それから、「北高のグラウンドの敷地は大変広く、運動施設として部活動をするには非常に使いやすい。」という意見は、私どもも「その通りである」と思っている。しかし、今後、統合となった時に、「北高のグラウンドや体育館をどのようにしていくのか。」という点については、先程の「部活動でグラウンドだけでも使えるようにしてもらえないか。」という意見と同じであると思っている。先程申したとおり、「統合後、空き校舎となる予定の北高の校舎やグラウンドの利活用の方針が最終的に決定されるまでの間は使っていくことができないか。」については、今後の福島市側との話し合い、あるいは、県としての方針の整備、検討の中で考えていきたい。

【紺野篤男委員（地元有識者）】

今年の春、統合校が 5 校できた。統合を検討するにあたっては、今回の懇談会と同じように「どのようにすれば魅力ある学校になるか」というような検討を

されたと思う。しかし、開校した５校は、ほとんど定員割れをしている。私は、他の学校を受験しようとしていた生徒が、新たな魅力ある学校を受験することによって、定員割れにはならないと見ていたが、応募状況を見て「このような状態になってしまうとは。」と思ってしまった。県教委としては、この現実をどのように考えているのか。そして、これを踏まえた形で、今回の西高と北高の統合をより良いものにしてもらいたいと思っている。あと、今年の受験の状況で、もう一つ気になったのは、西高のデザイン科学科の志願者数が非常に少なかったことである。やはり西高といえば「デザイン科学科」、力を入れて魅力を発信していると思うが、定員を大きく下回る志願者数だった状況を見て、今後、どのようにテコ入れしていくのか伺いたい。

【中野正人　県立高校改革室長】

統合校 5 校の定員割れの現状について、私どもとしては、いろいろ調査し、その中で、統合前の入学者数と統合後の入学者数の比較もしている。その結果、統合前、それぞれの高校に入学していた生徒の合計数よりも統合校に入学した生徒数の方が多くなっている。しかし、それでも、定員割れを起こしている状況である。その原因については、その地域の子供数がどんどん減っている部分がある。合わせて、今回、前期実施計画で統合した学校は、都市部ではなく、周辺部である。周辺部同士の統合で学校を再編整備したが、都市部に対する子どもたちの進学志向が高く、周辺部で統合して魅力化を図ったとしても、選択してもらう段階までには至っていない。その他、定員割れの要因としては、入試のタイミングが早い私立高校を受験して、合格すれば県立高校の受験を回避する生徒がいること。また、少子化傾向になっている状況で、全日制以外の通信制の高校などに進学していく生徒が増加していることも要因となっている。

【横山信一委員（福島北同窓会長）】

そもそも「北高と西高を統合して、校舎については西高の校舎を使用する。」という話は、新聞報道で知った。そして、「統合校として西高を使用する。」ということが前提となって懇談会が開かれ、「統合校として北高の校舎を使用してほしい。」と話をしても「利便性を考えて」の一点張りで、「御理解ください。」という回答しか得られていない。皆さんが言ったように、校舎やグラウンドの問題を考えても、また、飯坂地区の地域性を考えても、「統合校を北高に置いた方が良いのではないか。」という考えは変わらない。確かに、西高は、駅から近いが、駅の西口周辺に大きなゲームセンターが２カ所あり、少年補導員をやっている私の目から見ても、決して良い環境ではないと思っている。北高の場合、周辺は田んぼや畑しかないので、環境に問題はない。利便性ありきで、「統合校として西高を使用する」ことに関して、同窓会としては、最後まで反対の立場を取ら

せていただく。

【中野正人　県立高校改革室長】

　統合校として使用する校舎を西高にすることについて、本日の懇談会の資料の中で説明したとおりである。さらに申し上げると、普通科は学区制限があるが、それ以外は県内一円から生徒募集を行うことになっている。統合校の３つの学科は、全て、県内一円の生徒を募集する学科となるので、より広い範囲から、生徒が通学してくることが想定される。現状、資料にある西高に通学している生徒数を見ても、県北地区以外の地区から通学している生徒が一定数いる。統合校については、より広い範囲から通学することが想定されるので、統合校は西高を使用する必要性があると思っている。この「駅に近い」という一点をとっても、非常に大きな魅力である。先程、申し上げた「都市部志向」という部分もある。そういった点も含めて、統合校は西高の校舎を使用することを重ねて説明する。

【伊藤隆之委員（地元有識者）】

　「校舎方式」と「デザイン科学科」について話をしたい。「校舎方式」は「入学した生徒が、入学時と同じ学び舎で卒業したい。」ことだと思う。また、統合後、いきなり閉校せず校舎方式を利用することは、北高の地元、飯坂地区の住民にとっても良いことではないかと思っている。具体的な行事として、文化祭や体育祭などは、どちらかの学校で一緒に行うことが良いのではないか。「終わり良ければすべて良し。」というわけではないが、是非、「校舎方式」は「生徒ファースト」で考えていただきたい。

　もう一つ、デザイン科学科の定員割れについて、県内にある高校で「この学校はこんな特色がある」とイメージする学校が、それぞれあると思うが、この統合校は、特色が、ぼやけている印象を受ける。その中で「デザイン科学科」は、特色の一つである。ただ、中学生の意見に「デザイン科学科を残しつつパワーアップさせてもらいたい。」というものがあった。このような意見が出るのは「デザイン科学科は、まだ不十分な状態である。」ということだと思う。私は、受験生の子どもを抱えている関係で学校説明会に参加しているが、各高校の校長は、非常に良いアピールをされていた。これを踏まえると、教職員の力が、統合に向けて、とても大事になってくるのではないかと思っている

【佐藤静子委員（地元有識者）】

　資料の中で「統合に関するアンケートの実施」について、生徒たちが高校を選ぶ時に重視することとして「学科」と「部活動」が多数を占めていた。これを踏まえると、私たちは、生徒たちの声を十分に反映させた結論を選んでいかなければならないと思った。実は、福島西女子高校にデザイン科学科が新設される時に教職員として勤務していた。その時、私を含め教職員は「どうしてデザインなの

か」という思いもあり、積極的な声ばかりではなかった。ただ、その一方で、中学校の生徒たちが強く望んでいたのが、この「デザイン科学科」である説明を受けた。今になってみれば、このような生徒の強い希望が、指導者に熱意を持たせて、それが学校の「伸びしろ」につながっていくのではないかと思っている。部活動も、資料のとおり、生徒たちが学校生活を充実させる要因になっているが、私も、先程意見として出た北高のグラウンドについては、強く希望していきたい。私は、北高に勤務した際、かつて硬式野球部の甲子園出場がきっかけで、グラウンドや練習用の施設が整備されたと伺った。どうか、生徒たちの希望を十分に勘案していただきたい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

「校舎方式を取るべきではないか。」という意見、「統合校の魅力のひとつとしてデザイン科学科について強く発信すべきではないか。」という意見。「生徒の声をよく踏まえて教育内容等に反映させるべきではないか。」という意見。「北高のグラウンドの施設を使うべきではないか。」という意見を頂いた。それでは、回答させていただく。

【中野正人　県立高校改革室長】

校舎方式を取ることによって、「飯坂の方にとっても良いのではないか。」という意見を頂戴した。校舎方式については、検討を重ねて、次回までには回答できるようにしていきたい。

デザイン科学科の定員割れに関連して、「パワーアップした方が良いのではないか。」という意見がアンケートでもあった。現在、西高の先生方は、子どもたちの希望に応じるべく、一生懸命努力して、実際の進路希望に繋げていこうとしている。また、在学中の学びについても、様々なデザインの発表の場を設け、さらには、福島県の「エシカル消費」の啓発活動において、デザイン科学科の生徒が、ロゴマークやキャラクターのデザインを発案し採用されるなど、いろいろな取組をしている。統合校については、このような、これまでの取組を踏まえて、よりパワーアップしていくことが必要であると認識している。そのような、特色化・魅力化については、今後、両校の先生方と共に、しっかり検討していきたい。

それから、部活動についても、「高校選択の大きな要因になる。」という意見はごもっともだと思う。統合校の部活動については、令和 7 年度の入学生が統合時には 3 年生となるので、できるだけ速やかに、両校の先生方で、統合校で設置する部活動を精選、検討して、中学生に情報発信していくことが必要だろうと考えている。また、「どのような部活動を置くのか。」についても、子どもたちのニーズにも応えられるよう設置する。あるいは、どのような部活動を設置すれば、子どもたちの健やかな成長に寄与できるのかという観点からも検討を進

めていきたい。
　最後の「学科」「部活動」について、「子どもたちの希望を大切にしてほしい。」という御意見を頂戴したが、これについては、我々、それから両校の先生方、一緒に肝に銘じて今後の検討に役立てていきたい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】
　先程、渡邉委員からあった「中学生に統合校の魅力を早めに発信するべきではないか。」という部分と合わせ、反映させた上で、中学生や保護者の皆さんに早めに発信することを意識しながら取り組んでいきたい。

【佐藤秀美委員（福島市教育長）】
　生徒へのアンケートについて、おそらく、１人で 1 項目しか選べないような形式だったと思う。「統合校に期待する教育」に対して「自主的な学びを大切にする」「専門的な内容を学ぶ」という回答があった。この２つの回答は、両者並び立つものだと思う。つまり、教師から一方的に講義するような形式の授業を受けるのではなく、子どもたちが主役となって学びを深める。それは、「地域の中学生の意見」にある「生徒の個性を大切にし、自分たちで考えて行動する校風にしてほしい」という部分に表れていると思う。したがって、どういう学科を設置するかも大事であるが、全ての学科に共通する授業が、「子どもが主役」になっていて、そこに子どもたちが学び甲斐を感じて、個別最適な学びや協働的な学びが充実している学校を作ることを是非発信していただきたい。
　それから、今、義務教育では「GIGA スクール構想」で、一人一台のタブレット端末を使って、授業が少しずつ変わってきている。そのような子どもたちが高校に進学していくので、これからの時代を考えていけば、統合校においても、そういった端末が、学びのツールとして学びが深まるような環境を整えてもらえるとありがたい。

【村上敏通委員（地元有識者）】
　私は、北高の学校評議員をしており、総合学科のことしか分からないが、総合学科は素晴らしい学科だと思う。ただ、現状、北高は定員割れを起こしている。校長先生にも伝えているが、総合学科の良さをもっと中学生にアピールするべきであると思っている。県の教育庁においても「総合学科には、このような良いことがある」という魅力を、是非、中学生に発信してもらいたい。
　空き校舎の利活用について、「福島市と協議していく」と話していたが、北高は、県の所有物であるので、県の考え方で、例えば「部活動で必要である」など必要性を認めたら、県側が主体性を持って決めてもらいたい。

【中野正人　県立高校改革室長】

「総合学科の良さをもっとアピールしてほしい」という意見について、実は、中学校の生徒だけでなく、先生方においても「総合学科とはどのようなものか。」について、あまり浸透していない。そこで、各中学校において「高校説明会」を開催し、各高校の魅力について説明している。今後は、西高と北高の統合を契機にするわけではなく、県内全体に総合学科の魅力をアピールしていきたい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

北高の校舎の利活用について、今回、県立高校改革の前期実施計画及び後期実施計画で、空き校舎になる予定の学校は 16 校あるが、県では「空き校舎利活用の支援策パッケージ」で、「市町村で空き校舎を必要とするならば、無償で提供する」。また、「校舎を解体して利活用する場合、市町村の解体費用に補助金を提供する。」といったパッケージを準備している。現段階では、各市町村が「まちづくり」の観点から利活用について、どのように考えていくか。という協議が始まっているところである。福島市とは「西高と北高が統合するにあたっての空き校舎の利活用として、このような意見が出ている」といったことを情報として示しながら、協議を進めていきたい。

【石綿厚委員（岳陽中学校長）】

今回、初めて改革懇談会に参加し、いろいろと話を聞いて、改革の意図や方向性を理解した。今、中学校では三者面談を実施している。1 年生から 3 年生まで、いろいろな学校生活のことについて生徒、保護者に話をしている。その中で、2 年生の保護者から「高校 3 年生になった時に、どうなるのか、教えていただけないか。」という質問が出て、担任の先生が「まだ、よく分からないので、分かり次第お伝えする。」と答えたという報告を受けた。今後、高校に入学する、今の中学校 2 年生・1 年生に向けても、進路決定に大きく関わってくるので、統合校について、保護者や生徒の目線で分かりやすい情報を発信してもらいたい。

また、資料にあった「統合校の特色ある取組（案）」の「新たな取組」の中で「学科を相互に結びつける取組」があったが、これだけでは、学校関係者である、我々でも分からない。今、説明できる範囲で考えていることを教えていただきたい。

それから、学校教育に関わっている現場からの声としてお伝えしたい。今の子どもたち、特に中学 2 年生・1 年生ですが、中学 2 年生は 1 年間、中学 1 年生は 2 年間、統合後、高校生活を送ることになる。話題に上がっている「校舎」は、皆さんも高校時代を思い出していただくと分かると思うが、校舎は単なる建物ではない。学び舎として、恩師や友だちと過ごした「かけがえのない空間」である。そういったところで「震災」や「コロナ」など、様々な制限を体験してい

る子どもたちが、新たに統合後、高校生活を送るにあたって、「統合して良かった」と思えるような教育活動を思う存分味わわせることができる環境作りを、我々大人が知恵を絞って考えていく必要があるのではないか。いろいろ制限があるかもしれないが、子どもたちが学び舎を巣立った後に「本当に良い高校生活だった」と思えるような、校舎を振り返ったときに懐かしく思い出されるような、そのような 3 年間にしていく必要が、我々大人に課せられた宿題なのではないかと思う。いろいろな困難があるかもしれないが「子どもたちファースト」でお願いしたい。

【中野正人　県立高校改革室長】

新たな取組にある「学科を相互に結びつける取組」について、具体的な内容はこれからとなるが、県内で複数の学科を設けている学校において、その学校内での「学科間連携」を実践している事例がある。これは、文部科学省からの指定を受けて 3 年間取り組んできた内容でもあるので、そのような事例などを参考に実施していきたい。統合校においては、探究科、デザイン科学科、総合学科で、文部科学省から指定を頂いた事例とは異なるが、統合校における学科間で連携した学びをどのように行っていくかについては考えていきたい。例えば、デザイン科学科で特色となっている学びを探究科の生徒が取り入れたり、総合学科の生徒たちが探究科の生徒と一緒になって課題研究などを行ったりするなど、様々なことが想定される。ただ、具体的な内容については、今後、検討していきたい。いずれにしても、石綿校長からあった「生徒ファースト」「統合して良かった。」というような教育活動を、きちんと大人が考えて提供していくべきだという部分は、肝に銘じて、今後の検討にあたっていきたい。

【佐藤隆広　県立高校改革監】

我々大人が、学校の環境を作らなければならない考えは、学校の再編整備の出発点だと認識しているので、我々も、そこは、しっかり頭においていきたいと思う。

では、最後にまとめということで、一言申し上げます。本日は貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。皆様方から頂きました御意見を踏まえまして、福島北高校の施設利用に関すること、それから、各学科の教育内容、特色化、魅力化に関する取り組み、進学指導重点校としての進学指導の方向性など、提案させていただきましたが、全体としては、皆様方に一定の御理解をいただくことができたと思っております。ありがとうございました。今後は、今回頂いた御意見を踏まえまして、両校と相談しながら検討を進めてまいります。特に「校舎方式」に関する御意見を頂戴しました。こちらにつきましては、今後、検討を重ね

た上で、次回開催の改革懇談会にて、説明をさせていただきたいと思います。委員の皆様には、これまで忌憚のない御意見を賜り、改めて深く感謝申し上げます。本日は、どうもありがとうございました。

（５）　閉会